

■H30. 8. 3 市長定例記者会見内容

日時 平成 30 年 8 月 3 日（金）午前 11 時～

場所 庁議室

出席 市長、副市長、危機管理監、地域創生部長、上水道技監、都市デザイン課長、港湾交通主幹、市長公室長
酒田記者クラブ 6 社（山形新聞、荘内日報、朝日新聞、毎日新聞、河北新報、NHK）

■内容

1. 記者発表事項

なし

2. 懇談

◎幹事社による代表質問（事前通告）／酒田駅前再開発事業の着工の遅れと金銭的な問題について

記者／先日発表された酒田駅前の関係、総事業費について 102 億から 108 億円に増額されるとのことだったが、108 億に収まるか。

市長／現在調整中。全部市が負担するわけではない。精査の上、目標額に収めるよう努力する。理由としては全体面積の増、建設費用の高騰。駅前事業をこれ以上頓挫させられない。各企業からの協力を得て、実現させたい。

企画部長／単価の高騰について、計画を発表した H28 年夏から現在までの時間経過と共に建設単価が高騰したということ。

記者／完成が 1 年と大幅に遅れる。率直にどう思うか。今後、市民への説明の機会を設けるなどの考えは。

市長／残念である。市民の皆さんにとっても、これまで頓挫してきた経過もあって、なるべく早くという思いがあると思う。ライブラリーセンターなどなるべく早く完成させたい。しかし、遅れること自体は、状況的にある程度仕方の無いことだと思う。これ以上遅れることがないように、しっかり進めていく。今後の広報活動については、議会への説明は済んでいるが、市民への説明も機会を見て行っていく。

記者／最初の提案において、専門家の意見も参考にして進めたはず。その上でこれ以上遅れるというのは、認識が甘いと言わざるを得ないのではないか。

市長／面積の増加については、当初の想定より単純ではなかった。国との補助金関係の交渉も関係してくる。ある程度仕方の無いこととは思いますが、とにかく頓挫はさせられない。1 年遅れるのは残念ではあるが、完成に向けて進めたい。

記者／確認の意味で、これまでのようにはならないとここで宣言をお願いしたい。

市長／もちろん行う。ただし市が全て責任を負う事業ではない。民間業者にも責任・負

担を負っていただく。その中で市としての責任を果たす。市長として、絶対に頓挫はさせないという強い意思の元行っていく。

◎フリー質問

【中高一貫校設置について】

記者／県から庄内地域の住民の意見を聞く機会について、酒田市オファーはあったのか。市長／県からの、市民に広く意見を聞く場の設定のオファーはない。それを経ないで安易に結論を出されては困る。

【小牧浄水場の現状】

記者／渇水に伴う取水制限・給水制限について改めて聞きたい

技監／最上川に塩水が遡上し、小牧浄水場での取水および浄水を停止。7月28日（土）、市街地の10%減圧と県への受水増量の要請。29日（日）午後3時に、市内全域を20%減圧。30日（月）に取水・浄水を開始。31日（火）の午前10時に給水制限を10%に緩和。現在は、10%制限を継続し、市民への節水を呼び掛けている。市民への周知については、防災行政無線およびホームページで発信。記者クラブへの情報提供。現在も水位は上下している。底付近はほぼ海水のため、今後も取水停止、給水制限はあり得るので、市民の皆さんには引き続き節水にご協力をお願いしたい。

記者／配水地の水位は。

技監／昼間は減少し、夜間は増加する。

記者／夜は満水になるのか。

技監／その通り。

記者／最上川の取水点の状況は。

技監／本日9時40分では、1.4メートルより下はほぼ塩水。深さは4メートル。取水する場所はほぼ水面近く。

記者／これまでこのような例はあったか。

技監／平成27年に取水停止になりかけたことはある。

記者／要因は渇水か。

技監／その通り。上流から流れてくる水が少なければ、塩水は入ってくる。今回は大潮が重なったというのもある。

記者／また潮位上昇によって同じ状況になる可能性は

技監／可能性はある。お盆ごろにまた大潮となり、同時期は水の使用量も多いため、警戒している。

記者／関連で、渇水の影響での農作物への影響は。

危機管理監／農業用水関連から連絡はない。

【外国クルーズ船】

記者／今年の3隻についての、乗船具合、市民への波及効果など

市長／受け入れに関しては、市民の皆さんががんばってくれた。想定以上に商店街に人があふれて、買い物をするなど、受け入れ側が対応しきれない部分があった。コスタネオロマンチカについては、乗客が少ないのもあり、市内にほぼ流れたようである。引き続き交流を進めていく。反省点はまだある。来年は6回客船が寄港するので、翌年以降につながるようにしっかり準備して進めていく。コスタの歓迎レセプションでは、船長がさくらんぼ好きであり、できればさくらんぼの時期に来たいという話があった。コスタはどうしても青森のねぶたまつりとの兼ね合いがあるためさくらんぼの時期に来るのは難しいが、山形県・酒田のいい点をPRできるようにやっていきたい。コスタの船内のバーに酒田の酒を置かせてもらうなど、地域を売り込む必要性は強く感じた。

記者／高校生、大学生が受け入れに活躍していた。酒田の子どもたちは、卒業後に域外に出る傾向があるが、酒田にいながらこういうことができるという体験は貴重だと思うがどうか。

市長／その通り。ただ、学校に関しては学校長の理解と協力が大事。昨日も六中の子どもたちが活躍してくれた。市としては学校側にそのような働きかけをしないといけない。学校側からも、生きた勉強が出来る機会であると捉えて協力してもらいたい。